

第7回（仮称）磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会 議事録

日時	令和4年10月21日（金）午前10時00分～午前11時30分
場所	磐田市役所本庁舎4階 大会議室
出席状況	<p>委員</p> <p>日詰 一幸（静岡大学学長）</p> <p>村上 勇夫（磐田市自治会連合会会長）</p> <p>星野 秀次郎（磐田市自治会連合会副会長）</p> <p>藤田 允（竜洋住みよいまちづくり協議会会長）</p> <p>青野 博美（豊岡中央地域づくり協議会会長）</p> <p>三輪 邦子（NPO 法人磐田まちづくりネットワーク代表理事）</p> <p>村田 建三（NPO 法人いきいき・いわた理事長）</p> <p>阿部 俊典（公募委員）</p> <p>飯田 佳一（公募委員）</p> <p>両角 真利（磐田市長野交流センター センター長）</p> <p>事務局</p> <p>自治市民部：鈴木 賢司部長</p> <p>地域デザイン推進室：宮本室長、山田主査、杉田主任、宮崎主事</p>
傍聴者	0人
議事内容	<p>1 第1回ワークショップの振り返り</p> <p>2 第2回ワークショップに向けて</p> <p>3 地域づくり関係情報の提供について</p>
録音の有無	有
発言者の記録	要点記録
会議記録	<p>1 開会</p> <p>（事務局）</p> <p>改めましておはようございます。定刻になりましたので、第7回、仮称磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会を開催いたします。地域デザイン推進室の山田です。よろしく願いいたします。それでは開会に当たりまして、日詰委員長から御挨拶をいただきます。よろしく願いいたします。</p>

(委員長)

皆様おはようございます。今日もお時間を割いて磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会に御出席いただきましてありがとうございます。

9月30日に1回目のワークショップが行われまして、それから約3週間たちました。委員の皆様にも御出席いただき大変ありがとうございました。磐田市のよいと思うところ、今後、変化があったらいいなと思うところを話し合うことが出来たと思います。このように、市民の皆様が集まって磐田市のことを話し合うというのは、まさに磐田市のまちづくりの第一歩だと思っております。草野市長もおっしゃっていましたが、そういうことをずっとやりたかったということでありましたので、市長の思いも叶うことが出来てよかったと思っております。今日は1回目のワークショップについて皆さんと振り返りまして、2回目に向けていろんな御検討をしていただくこととなります。短い時間の中ではございますけれども、どうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。会議に入る前に、定足数の報告をいたします。委員12名中10名の御出席をいただいておりますので、(仮称)磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会の要綱第5条第2項に定める定足数の半数以上を満たしておりますことを御報告申し上げます。また、本日は、傍聴者はおりませんので、お伝えいたします。本日、原口ファシリテーターにも御出席いただいておりますので、お伝えをしておきます。それではここからの進行につきましては、委員長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

(委員長)

それでは、私のほうで議事を進めさせていただきますのでよろしく願いいたします。御手元の次第に基づきまして議事を進めてまいります。それでは、議事の(1)第1回ワークショップの振り返りということでございます。事務局から御説明いただければと思います。よろしく願いいたします。

(事務局)

はい。第1回ワークショップにつきましては、委員の皆様のお出席をいただきまして誠にありがとうございました。資料の1ページ目を御覧ください。世代は、10代から70代まで、全部で46名の応募がありました。女性の比率につきましても、半分までとはいきませんが、まずまずのご参加をいただけたと思っております。これも、委員の皆様のおかげでございます。ありがとうございました。3ページから6ページ目には、応募いただいた46名の動機をつけてございますので御参照ください。そして7ページ目から15ページ目につきましては、第1回ワークショップの概要等の写真、それから17ページには、参加された皆様にお願ひしました心に残ったワードのまとめをつけてございま

す。46名の参加者のうち、22名から回答を得ております。これらを御参照いただきながら、振り返りをさせていただければと思います。事務局からは以上となります。よろしくお願いいたします。

(委員長)

はい、ありがとうございました。資料を御覧いただいて特に写真を見ていただくと、当日のことが、ふつふつと思い出されてくるのではないかと思います。簡単に事務局のほうから、1回目のいわたまちづくりワークショップについての御報告をいただいております。皆様のほうから、御質問、御意見がありましたら、お出しいただきたいと思います。いかがでしょうか。

(委員)

私が紹介した方々も、当日参加して下さってよかったと思います。「今まで磐田市はこういうことをやっていたのか」と若い方が言われました。「このところなかったです」と話をさせていただきました。「ワークショップは来年もあるのか」という話まで出てきました。今年は3回ですが、若い方々が自分の考えや意見を言う場が少なかったことを実感しました。若い方々が何でも言える場、いろんな活動している人たちと出会える場として、この会はとても大事だと第1回目を終えて思いました。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。事務局の御説明に対しての質問、御意見だけでなく、当日のことを振り返りさせていただいて、皆さんのお感じになったことをお話しいただいて構わないと思います。このような御意見もぜひお出しいただければと思いますが、ほかの委員の皆さんいかがでしょうか。またファシリテーターの原口さんもぜひ御参加いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(委員)

私のグループに大学生の女性の方がいました。大学生の女性とひとつのグループで会話するのはとても新鮮でした。磐田のことをみんなで考え、意見をたくさん出していただきとても新鮮でした。今後は、市が主導しなくても、地域主導で長く続けられたらいいと思います。若い人たちの、地域参加のトレーニングの場にもなるのではないかと思います。非常に嬉しくなりました。

(委員長)

ありがとうございました。他の委員の皆様いかがでしょうか。

(委員)

私のグループは中学生が参加してくれました。若い人は話の中で、「おじいちゃんがこう言っています」とか、「お母さんがこう言っています」とお話をしてくれるので、若い人が来ると、多くの年代の人の意見を集約できるのではと思いました。私のグループでは話し合いの中で通学路の問題についてでてきましたが、これは学校へ通って実際に自分が体験していないと、このような問題は出てこないと思います。現実に近い問題をアピールすることができていい機会だったと思います。ファシリテーターの配置を考えて班の編成をどのように変えるのか市のほうでも考えがあると思いますが、1回ごとに班を変えるのもひとつの方法だと思います。せつかく顔見知りなだったので、もっと奥の深い話が出るのではないかと思います。班の編成の仕方も、一考していただければと思います。

(委員長)

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

(委員)

私が参加したグループの中で、子育てがしにくいという声がありました。子育てがほぼ終わりに近い方の年代でした。これがこれからの課題になるのではと感じました。もう一点は、「磐田は年寄りの方々が結構物を言うので若い人たちは発言しにくい」というストレートな言葉もグループから出ました。若い人たちはそう感じているのだとわかりました。私も言い過ぎないようにします。

(委員長)

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。何かお感じになったことありましたら、ご自由にお話しいただければと思います。

年齢を超えて、男女の性別を超えて同じグループの中でいろんなことを話し合えるという機会はあまりないですね。今、皆さんがおっしゃいましたが、例えば地域のことは大人に任せておけばいい、さらにはある程度、時間の自由な方に任せておけばいいというようなことになってしまいます。当然そこに来られる方は、大体似たような方々、立場の方々だけになってしまいます。ですからそれ以外の年齢層や状況の方々が集まって同じ課題に対して意見を交わすというのは、とてもいいことだと思います。いろんな考え方が出てきますので、それを受けてどういう方向に向かうのがいいのかということをお互いに話していきますと、一人ひとりが当事者意識を持つこととなります。そこを通して、まちづくりに自分はどのように関わられるのかを考えていただけるようなきっかけになるのではないかと思います。今年だけで終わってしまうのはもったいないということですが、当然、市では継続的なことを考えていただけるものだと思います。他に何か皆さんがお感じになったことがありましたら、ご

自由にお話しいただければと思います。

(委員)

ワークショップの時間の制約上難しいのかもしれませんが、参加者が、3分間か5分間、自由に自分たちのグループでは出なかった意見を各テーブルへ見に行くことができる進行があればもう少しよかったと思います。

(委員長)

ありがとうございます。他にどうですか。

(委員)

いろいろ話を聞いていて思うのは、昔は婦人会や子ども会がありました、今はほとんどその活動がなくなってきています。今あるのは、理事会や防災会です。理事会や防災会の意見は出てきますが、実際に生活して困っているという話は意外と婦人会や子ども会の中や井戸端会議の中から出てくると思います。そのような情報や声が集約されにくくなっているような気がします。困っている人たちや弱い立場の人たちは、声を出すことすら難しくなっている、それをどう拾い上げて、大きな問題にならないうちにどう手を打つかが市の課題でもあると思います。同時に地域の課題でもあると思いました。

(委員長)

はい。ありがとうございます。他にございますか。

(委員)

ふたつあります。ひとつは、市に要望したくて来た人がいました。「要望するために来た」と言っていたので、日常的に発言する場がなかなか無いのではないかと思いました。もうひとつは、グループの中で「歴史文化は大事であるのに磐田市はPRすることが下手である」という意見が出てきました。今後の課題だと思います。

(委員長)

はい、ありがとうございます。市民討議会という名前で、日本のあちこちでこの種のことが取り組まれているわけですが、やはりまち独自の進め方があるわけですね。それは、その地域に根差したいろいろな環境があるわけですから、それをうまく生かして、市民の皆様がそこに入って、意見交換ができるような形にするということをやっていると思います。磐田市独自のワークショップの在り方というものを、これから皆さんと一緒につくっていただければいいのではないかと思います。意見を出しっ放しにするのではなく、それを今度は自分の問題として捉え、自分がどういう形でまちづくりに関わられるのかということ

考えていただきたいです。そして、さらにそこに自分が入っていけるような環境循環をつくっていただくというきっかけとして、ワークショップを使っていたらいいのではないかと思います。そういう形で、今回のワークショップをさらに発展していけるような方向を皆さんと一緒に、この場でも考えていけたらいいと思っています。他に何かございますか。原口さんのほうで磐田市の皆さんは話を聞かないとおっしゃっていました。何かありましたらどうぞ。

(原口ファシリテーター)

はい、皆さんどうもありがとうございました。いろんな自治体でやっている地域性が見えてきます。グループ内で話をしている、誰かの声が大きくて終わらないという自治体も結構あります。磐田の方はみんなが喋っているイメージです。参加者の方から、声大きい人に対してやめさせてはどうだろうという意見をいただいたことがあります。例えば、手を挙げてやめさせるとか、会話を止めてしまうとか、ベルを鳴らすなど。しかし今回、あえてそういうことをしませんでした。皆さんがまず話すのが一番の目的であったし、いろんな価値観やいろんな経験の中で、同じことを言わないということを知ってもらう、その多様性みたいなものを意識してもらうことが一番大事だったということもあります。ワークショップをやることを目的にしたくなかったので、みんな目線が違うという、先ほどの通学路もそうですが、私たちは車でしか通らないので分からないですが、子どもたちが歩いていたり自転車に乗っていたりすると、暗さが違うので、ここに電灯が欲しいっていうのが分かります。牧之原市も、横断歩道が欲しいという意見が子どもから出ていました。ワークショップの時間が本当に少なくて、9時終了だと、皆さんの御自宅に帰る時間は9時半になってしまいます。子どもさんを預けられてくる方は、9時半までやってしまうと帰る時間が10時になってしまいます。今回のワークショップも10分延長してしまいましたが、その辺のところもとても気にかかります。今後、ワークショップを積み重ねてきたら、1日ワークをやるととても楽しいと思います。午前中みんなで講義的なものを受けて、みんなでお弁当を食べて、午後みんなで作って上げていたりする形があったりとか。そういう時間がたくさんあれば、阿部さんの言われたように、見せるという必要性もあって、見ることによって書き方も皆さん全然違うということを感じてもらえるということもあります。よく私は「アナログ版のパワーポイントだよ」と言うのですが、模造紙に最初から絵を書いていく人がいたり、短縮で書く人がいたり、そういう違いもみんなを感じてもらうことも面白いのではないかなと思っています。このワークショップは、多世代がいろんなことを言えたり若い人がものを言えたりできる場所なのですが、ずっとこれをやっていると、不平不満が出てきます。ただやるだけじゃないかと。次につなげて欲しいと必ず出てくるので、今回も行政の政策につながるようなポイントが出てきたと思います。やはり、そういうところをどんどん拾い上げて、そこについて市民が話し合いをする場をど

んどんつくっていくということが大事です。行政が主体ではなく、行政はあくまでも下支えをしていただく中で市民がやっていくというのが必要だと思いました。ですから、今やっているのは、対話をオープンにしていく場所で、みんなが何となく感じてもらう場所で、「夜の市役所はこうなっているのか」とか、何でもいいです。「しっぺい君はエレベーター乗るのか」とか。そういうものを感じてもらって、まちづくりに関わってもらいます。だんだんこれが進んでいくと、さらにワークショップを取り入れて、皆さんの中で合意形成していきたい。今回は感じるというところで終わっていますが、だんだん合意形成につながるようにつなげていかないと、皆さんが今後飽きてしまうと思っています。少しずつ段階を踏みながら、いろんな形でやっていければなと思っています。11月のワークショップで参加者の方にお見せ出来たらと思う牧之原市のDVDを、後でお見せしようかと思っています。これは10年続けて、市民が積み重ねたまちづくりなので、また御参考にしていただければと思います。また、もっとこういうやり方してほしいということがあれば言ってください。時間内でできる限りやらせていただきたいと思います。

(委員長)

はい、ありがとうございます。今、原口さんからお話がありましたが、何時からやるかというのはすごく大事ですよ。今回はお勤めになっしやる方々も御出席いただけるということで、19時からになりました。やることの中身が結構ありますから、なかなか2時間の中でよりよくやっていくのは難しい場合もあります。今お話がありましたように、土曜日の1日、あるいは半日を使ってやるなど、いろんな工夫の仕方があると思いますので、それはまた皆さんと御相談しながら、やっていければいいと思います。

それから、委員が御指摘になりましたけれども、テーマごとに、シャッフルして参加する人たちを入れ替えていくやり方もあります。そうしますと、人が固定化されませんので、その都度新しい人が入ってきたりして、いろんな形ができ上がってきます。その中で、先ほど原口さんもおっしゃいましたが、声の大きい人は必ずいます。その声の大きい人に、グループの討議が引っ張られていくという可能性があるのですが、シャッフルしていきますと、ある時には、「もうあなたいいから黙っていて」みたいな感じでそのグループの中で言われて、しゅんとなってしまう人もいます。意外とグループの中でそういう相乗効果が生まれてくるということもあります。そして、人が変わるといろいろな意見を聞けるという、いろんなメリットもあります。メリットだけではありませんけれども、そのようないろんな手法もありますので、そういうことを御紹介いただきながら皆さんにとって一番合うような形をつくっていければと思います。それから合意形成が必要なテーマもあると思います。その場合も、そこで全部が決まってしまうわけにはいきませんが、一応市民の了解としてはこういうものがあるのだということを市へあげることが出来ます。それをべ

ースにして最終的には議会でどうするかということを決めていただくことになるのですが、議会がその意見を聞く機会にもなりますので、これは非常に大事なことではないかと思えます。かつては、「俺たちは市民の代表なのだから俺たちが決めるのだ」というように、市議会は言うわけですが、「市民の声を本当に聞き取っていますか？」という話になるわけです。その時にこのようなワークショップや市民ディスカッションなどがとても大事になってきます。やはり議員の皆様も市民の声に耳を傾ける、あるいは声を聞き、聞いてみるという姿勢が出来てくると市民と議会との関係性も非常によくなっていくと思えます。いろいろな効果が出てくる可能性がありますので、いろんな形で皆さんの意見を聞き取りながらやっていければと思います。

次に進みます。1回目のワークショップについていろいろと御意見いただいておりますので、2回目のワークショップに向けてこれから、どのようにやっていったらいいのかっていうことを、これから皆さんの御意見いただきながら、検討してみたいと思います。まず事務局から説明お願い出来ますでしょうか。

(事務局)

はい。それでは19ページ目を御覧ください。次回は、11月24日木曜日になります。次回御出席予定の方、委員につきましてはよろしく御意見をいたします。次回ワークショップの目標ですが、協働を考えること、それから市民自治を知っていただくこととなります。テーマは、「課題を解決するために市と市民が一緒にやれることを見つけよう」としまして、第1回と同様、始めに委員のほうから、参加者に対して、磐田市の現状とこれからということについてお話をさせていただきたいと考えております。次回は阿部委員と飯田委員に御説明をお願いしたいと思っておりますが、21ページ目から24ページ目に、パワーポイントの資料のイメージをあらかじめ作ったものを付けてあります。そのうち23ページ目を御覧させていただきたいと思えます。前回の委員会で御意見をいただいたとおり、作成の段階から事務局と一緒に委員さんと作成を進めていきたいと思えます。現時点でのシート作成のイメージを、皆さんとも共有させていただきたいと思えます。初めにシート1では、磐田市の概要、2から4で人口減少の状況、それから5で人口の比較、6から8で、高齢人口の推移ですとか、少子高齢化の状況で、9から10のシートで、家庭の状況さらには11で、公共施設の老朽化にも少し触れて、シートの12で現状のまとめという形にすれば、おおむね、20分から30分ほどの説明になるのではないかと思います。これにつきましては、阿部委員と飯田委員のイメージに沿った形で作成をしていきたいと思っております。それから、20ページに参加者名簿をつけてございます。第1回につきましては、全グループ10グループに委員の皆様に入らせていただきまして、各グループに、女性が2名入るような形で、組分けしてございました。それから世代のバランスを整えてありました。また市民活動センターのつ

ぽのほうで、今開催してくれています、ファシリテーターの養成講座を受講中の方を、各グループに1名ずつ配置してありました。第2回につきましては、この第1回を欠席された、3名の方が加わりまして、最大56名を10グループに分けることとなります。基本メンバーをシャッフルする予定ですが、世代のバランスですとか、男女のバランスを考えて組み合わせをすると、思い切った組合せが出来ないかもしれませんが、考えてみたいと思いますのでよろしくお願いたします。事務局からは以上となります。よろしくお願いたします。

(委員長)

はい、ありがとうございます。第2回目のことにつきましては、19ページのところに、2回目の内容が記されております。今回は、やるべき協働と市民自治ということ、皆さんと一緒に考えようということになっておりました。テーマといたしましては課題を解決するために行政と市民と一緒にやれることを見つけよう。要するに、行政の皆様と、市民の皆様と一緒にやれることってなんだろうか。それは9月30日の第1回目のところでいろんな課題が見えてきたので、そのようなことをベースにしながら、自分たちでやれること、あるいは一緒にやれることを考えてみようということです。情報提供というのがとても大事になってきますが、今回は、阿部委員と飯田委員が、磐田市の現状とこれからについて、自分事として考えていただくために、いろんな情報提供をしていただきます。それから、牧之原市では、10年近くこのような取り組みをしてきた中で、市民の皆様が自ら自治の主体として参加していくという、そのような実践が出来つつあります。そのことを御紹介いただくということになります。先ほどのグループのことですが、なかなかまい入替えは出来ないかもしれませんが、ファシリテーター養成講座に御出席いただいている方は必ずグループの中に入っていただく中でやっていこうということになっています。それから、阿部委員と飯田委員がお示しいただくような、資料のイメージとしてはこういうことになっているということで今御説明いただきました。以上の御説明で何か皆様のほうから御質問、御意見、あるいは今後、2回目は是非こういうことをしてほしいとか、いろんな御意見があるのではないかと思います。そういうことを含めて質問御意見ありましたらお出しいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

(委員)

私の地域でもいろんな人が集まる機会がありますが、その中でいろんな会話が出来るわけです。その時にやはり声が大きい人、流される人がいます。地域の文化というものがあります。その地域の文化に流されてしまうことがあります。男性のほうを尊重して女性のほうは裏で頑張っているようなことを美德とする地域です。女性の方々がなかなか表に出にくいというようなことがあるわけです。そういう地域の文化にすぐ引っ張られるということに対して、これから

どのようにしたらいいのか先生にお聞きしたいです。

(委員長)

地域の文化や習慣を、立ち切っていくことは、なかなか難しいわけです。それを否定してしまいますと、「もうそんなところに行きたくない」という話になってしまうだろうと思います。ですから、そういう地域の皆様が培ってきたことは尊重されなければいけない。大切にされなければいけない部分はあるのだろうと思います。とはいえ、今、社会は変わってきています。今、委員がおっしゃいましたけれども、いわゆる性別役割分担と言われるような、男性はこうあるべきで女性はこうでなければならないというようなそういう、考え方が大分変わってきています。ですから、そういうことを知っていただいたり、あるいは気づいていただいたりする、そういう機会になっていただくということも大事ではないかと思えます。それはやはり、いろんな地域の方々と交わることによって御自身の考え方が変わっていくことをダイバーシティと言います。いろいろな方々が多様性を持って集まって話をしていきますと、他の人の意見を聞くことによって御自身の考え方が変わっていきます。これを意見変容と呼んでいます。そういうことが容易に起こる可能性があります。ですから、そういうこともこういった市民ディスカッションだとか市民委員会だとか、ワークショップのメリットだろうなと思っています。けれども、やはりそういう場合いろんな方々が入っていただくということを、まずは心がけていただいたらいいのではないかと私は思っています。他にいかがでしょうか。

(委員)

1回目に出させていただきまして、一緒に同席された方が、このまちづくり条例に文句があるというお話をされてきました。その話を聞いたのですが、聞かずに終わってしまいました。他の方は「まちづくり条例を知らない」とおっしゃったので、紙で資料を分けることが出来ないのかと思いました。また、自己紹介に時間が取られてしまいますので、待っている間に名札を自分で作ったり、自分のしたいことや名前を書いてシールのようなものを作ったりしておけば、話す時間が長くなると思いました。ワークショップの目的が協働のまちづくり基本条例を知ってもらうということがあるので、手段としてのワークショップだけに終わらず、着地点としてこれを市民の目線で条例にしていくということがあると思うので、これを見てもらって、どうですかということもしたほうがいいと思いました。

(委員長)

今回は、こういうことを経験してもらうことが大きな目標になっていると思います。次のステップとしては、委員がおっしゃったように、委員会がある程度関わって市民ワークショップを検討していく場合には、やはり我々のミッショ

ンとして、この協働のまちづくり基本条例をつくるということがあります。それに向けて市民の声を聞くというのは当然必要なステップだろうと思います。ですから、今後どの様な形で組み込めるか、また検討させていただければと思います。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

(委員)

先ほどこの条例を、皆知ってもらおうというところですが、私が暮らす井通交流センターに行きますと、市が用意したと思うのですが、この条例の解説書がカウンターに置かれています。実際のところ、カウンターに来た人に読んでもらえているのかなというところで、どうかと思います。やはり地域の人に知ってもらうという意味では、回覧板は強いと思います。ですから、回覧板に「今、市と市民でこういうことに取り組んでいますよ。こういう条例をつくらうとしていて、ワークショップはこういうことで、これから取り組んでいきます。再来年の4月に施行しますので、皆さん楽しみにしてください」ぐらいの、何かそういった1枚のチラシみたいなものを回覧板に入れてもらうのも一つの方法だと思います。やはり交流センターにポスターを張っておくのは遡及効果が限られると思います。ですから、いろんな世代といっても、高齢者の人数が多いので、回覧板に一枚広報的なものを入れてもらうのが一つの方法かと思います。ホームページなども、自ら見に行かないと見えないので。回覧から手を出していくというのも一つ方法だと思います。

(委員長)

その辺りもまた皆さんとよく話合いできたらいいなと思います。いろんな効果的な方法があるのではないかと思います。それもやはり磐田のスタイルの中で、つくられるべきものもあるのだろうと思いますので、それも皆さんと一緒にお話出来たらいいです。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

(委員)

先ほど委員長がおっしゃられた、ワークショップの今後、今年度だけではなくて、来年度以降というところで、委員の話聞いて思ったことをお話しします。回覧板というのも一つの手ではありますが。それ以外に今年度に関していうと、市役所主体で年に3回やるだけというところで、それが市民の近いところに降りてきているかという、まだまだ遠いのではないかと思います。今回も、能動的に応募された方だけが対象になっているので、非常にモチベーションが高い方だけが対象になっていると思います。協働のまちづくり基本条例の目的の一つとして、まちづくりに関心がある人を広げていくというのも一つの目標だと思います。例えば、ワークショップを市役所で開催するだけではなく、各交流センターでも開催する。地域づくり協議会が主体になって、各地区でこういうワークショップをやっていく。年代としても、普段交流センターに足を運ば

れる方は、年齢層が高かったり、特定の方になってしまっていたりすると思います。それ以外の方をいかに巻き込むかというところが大事だと思います。地域づくり協議会や交流センター長が中心になって、磐田市全体でこういうワークショップが、年に何度もいろんな地区で開催されるような流れにしていくことが、長い先のスパンで考えたときには非常に重要であると思っております。

(委員長)

ありがとうございました。まさに委員のお話は全くそのとおりでと思います。先ほどもお話がありましたように、身近なところでできるということ言えば、交流センターというのはひとつの大きな集いの場になっていると思います。そこを活用してやっていくには、市民ファシリテーターの講座に参加していらっしゃる方々が育って、そういう方々が中心になって、ワークショップをリードしていくようなことができてくると、日常的にいろんなところでワークショップができると思います。例えば、今、長野地区で住民アンケートをやっておられて、97%という回収率で本当に驚きました。地域のことについて、関心を持っていらっしゃる方々が地域づくり協議会を通して、ディスカッションがなされていくと、地域の中でいろいろな取り組みが発生してきます。ですから、今年是这样子ですけども、次はどのようにつなげていくのかということも、ある程度この委員会の中で検討することができればいいなと思っています。しかし、押しつけはしません。こういう方向が考えられるのではないかということをご提案していくということではできると思っています。非常に良い御意見だったと思います。ありがとうございました。他にどうでしょうか。

(委員)

行政ではこの3回のワークショップをひとつの目処として考えておられますか。先ほどファシリテーターからもお話がありましたけれど、ある程度参加者に合意形成ということも必要ではないかと言われていましたので。合意形成するためには、この3回の中では無理ではないかと感じています。先ほど委員も言いましたように、もう少し地域に降ろして、交流センターごとに機会を設けたりする必要があるのではないかと思います。この3回で合意形成までもっていくには無理があると感じます。その点はどうか皆さんの御意見を聞きたいと思っています。

(事務局)

御意見ありがとうございます。今回ワークショップを開催するに当たって、どこまで条例の素案の中に、このワークに参加してくれた方々に入ってもらおうか悩みました。先ほど委員が言われたように、最初に、この条例の素案を配るべきなのかどうなのかと悩みました。ただ、条例のために集まってもらうのは、過大会議にならないかという不安もありました。ですから、今回は条例素案に

については一旦端に置いておいて、磐田のまちづくりについては、皆さんの意見を聞きたいので、参加してくれた市民の方々が磐田に対してどう思っているのか、2回目のワークで、これから磐田についての話を聞いた上で、こうしていこうよというような意見をいただきたいということが大前提にあります。今回の3回では、合意形成というところまでは、事務局としては求めてはいません。まず、意見を聞くということとその中で出てきたキーワードを、この委員会の中で素案にどう落とし込んでいくかということを考えていきたいと思っています。今はそのような形でこの3回を進めていきたいと思っています。事務局としても、1回目のワークショップをやって、相当手応えを感じています。来年度どうつなげていくのかについては、丁度、当初予算編成の時期ですので、今年度で終わりにはしたくないなという思いはあります。条例は、令和6年4月施行ですので、来年度の間に、パブリックコメントなどをやっていく話になると思いますが、条例に絡めてやれるのか、また先ほど委員長がおっしゃられたように、住民アンケートをやられた地区は課題が出てきますので、それについての地域の中でのワークショップというやり方もあると思います。それについては、地域と相談しながら、事務局も支援していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(委員長)

ありがとうございました。今、委員がおっしゃったような、そういうステージで当然あると思います。これは牧之原でも当然そういうステップのステージがあって、そういうものをいろいろ経験した中で今、市民討議会が行われていると思います。いずれまた委員がおっしゃったような、合意形成が必要な状況も出てくると思います。そのときは皆さんと一緒に方向性を考えていくというようなワークショップが出来たらいいと思います。それでは、牧之原市の様子を御紹介いただいてよろしいでしょうか。

(原口ファシリテーター)

はい。今年で10年になったひとつの地区のまちづくりです。牧之原市では、いろんなワークをやっていて、地区別、先ほど皆さんがやりたいと言った交流センターのものと、全市的な政策に関わるものと、2つに分かれてやっていました。10年前にスタートした地区のまちづくりのDVDで、7分なので見てください。次回のワークショップで流せたらと思っています。

(DVD 視聴)

(原口ファシリテーター)

どうもありがとうございました。大したことはやっていません。動画のまとめ方がとても上手で、どの地区でも子育て支援をやっていることでしょし、農

業のこともやっていることだと思います。これは10年前にスタートをして、今年で10年になりました。このとき8本の柱を立てました。8本の柱を建てるまで、1年近くみんなで気持ちを積み重ねてきました。中長期で計画を立てて、10年後の今回の柱が道の駅でした。ここはちょうど空港のところで、財産区だったり、お金もあつたりした関係もあつて、道の駅を最後の目標にしていました。その間にも、農業の農作隊みたいなものをつくって、自分たちでそこで売る畑をつくるなど、積み重ねをしてきた地区です。今年度このワークをやらせていただいてから10年がたちましたが、そのときの人たちが来てくださって、プラスして若い人たちも来てくださいました。10年の間に亡くなった方もいらっしゃいます。人はどんどん変わっていきますが、気持ちは「この地区よくしたいよね」というところで同じです。ここの地区も40%近い高齢化の中で大変ですが、「自分たちがまちをつくっていく」という意識がとても高いです。それは、対話の場を積み重ねてきたからではないかと思っています。市民ファシリテーターの研修の話を言われていましたけれども、ここも市民ファシリテーターの研修生みたいな子たちが前に立ってやっていました。本当に下手でした。本当に下手なので、みんなが協力してくれていました。大事なのが、プロのコンサルが来てやるのではなく、みかん屋の長男がずっとやってくれていたことだと思います。みかん屋の長男が下手なのをみんなが一生懸命支えながら場をつくってきたということがこの地区です。そういうのは市民の中で積み重ねるのが必要だと思っています。今回、DVDをお見せしようかどうか、皆さんにも御意見いただきたいと思っています。子どもがたくさん来ていましたが、子守りをしているのは、市の職員でした。そういう状況でいいと思います。その子たちが、高校生になってワークショップに来てくれるかもしれません。今回の道の駅のときは、地元の単学級の小学校が、道の駅の意見を学校でとってきてくれました。それを、「夜なので行くことはできませんが」と言って、意見を提供してくれました。ワークの場所はそこだけが必要であるのではなく、同じ目標の中でいろんなところでやっていけばいいと思います。この地区は、そのようなつくりだったので、皆さんに御紹介しました。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。市民ファシリテーターの方が、ある程度育ってやってきたというお話もありました。こういうやり方も成功例だと思います。こういう活動が最初から記録として残っていることがすごいと思います。牧之原テレビはまだあるのですね。磐田のこれからの新しい歴史をつくっていく、記録になると思いますが、例えばこれから、長野交流センターのところで、市民アンケート調査の発表会をすることになったときに、それをある程度映像で記録していくということもすごくいいことだと思います。ですから、目に見える記録を残していくことはすごく大事です。牧之原テレビは非営利の活動ですよ。

(原口ファシリテーター)

まだ非営利のままやっていると思います。

(委員長)

磐田も市民レベルでこういうメディアをつくっていくことも考えられたら面白いと思います。おそらくメディアに長けた方がいらっしゃると思うので。何か牧之原市の御経験、聞いてみたいことはありませんか。

(委員)

この地区でのまちづくりの話は他で聞いていたので、今ビデオを見て納得しました。

(原口ファシリテーター)

ありがとうございます。みんなが普通に来てくださっていました。このときに印象的だったのが、「ひとり暮らしが寂しい」と言っていたおじいちゃんがワークショップに来てくれるようになったことです。何かを決めていくのが、その人の目的ではなく、誰かと交流するのを楽しみに来てくださった人もいたので、そういう意味でも、こういう場は必要なのかなと感じました。

(委員)

10年目とおっしゃっていましたが、その間、人の気持ちがバラバラにならず、同じ方向を向いてやってくれたっていうのは、何か秘訣がありますか。教えていただきたいと思います。

(原口ファシリテーター)

はい。皆さん無理をしないことではないかと思います。みなさん本業があったりとか子育てがあったりとか、いろんなことがある中で、無理せずにやれる人がそのときに、しっかりとやっていくこと。同じ目的の中で、「今週はちょっと時間あるよ」とか、「今、親の具合が悪いから無理だよ」とか、そういうこともあっていいと思います。その時々で、「あいつは来ないのか」と言わずに、来ないことをいいにしてあげる雰囲気をつくるのが地域ではないかと感じています。この地区の人たちも、毎回参加できた人ばかりではなく、いろんな環境の中で参加できないときがあったと思います。ただ、思いの共有の時間はしっかりとったなということを自分の中で感じています。

(委員)

協議会などのいろんな行事で参加者を募集するときに、今回のワークショップではたくさんの方が応募されていますが、どのようにして参加していただくかというところを教えていただくと参考になります。

(原口ファシリテーター)

参加いただくのは厳しいのが現状です。きっかけは、PTAなどいろんなところから来ていただいて、楽しいなって感じてもらう場をつくるのが1番大事です。来てもらって、このかたい会議で何もしゃべることがなかったとならないようにすること。来た人たちが楽しいテーマを第1回目に確実につくっていくことが大事だと思います。最初、自ら来たいって人はモチベーションの高い人で、むしろモチベーションが高くない人をプラスにしていくことが大事です。最初は皆さん「嫌々来た人」と聞くと、手を挙げる人がいますが、それでもいいと私は思っています。帰りに少しでもよかったと思ってくれたら、それで十分じゃないかと思えます。

(委員)

8つのプロジェクトをつかって、その中の道の駅が最初だったという話がありましたが、このプロジェクトをどういう方法でまたどういう場で決めたのか教えてください。

(原口ファシリテーター)

当プロジェクトで決めたことは、ほとんどワークショップで決めています。毎回、月に一度、50人ぐらい集まって決めて、合意形成を積み上げました。積み上げた後、策定委員会というところに戻すというような、ジグザグの形をとりながらやってきました。最終的には、予算のことがあったり、人のことがあったり、8本というのもみんな8本だねって決めたのも合意形成です。先ほど、赤いシールを貼っていたのが合意形成のやり方で、それを磐田市の3回のワークショップの中でもやってみようと思っています。なんちゃって合意形成でいいと思っています。無理な政策を決めるという合意形成もありますけども、こういう方向でいきたいよねって合意形成もあっていいのではないかと思います。何か楽しく合意形成するやり方を今回入れようかなと思っていますが、この地区のときはそういう形でジグザグしながら、大体1年ぐらいかけてやってきたのが実際のところですよ。

(委員長)

ありがとうございました。それでは、2回目はこのような感じで進めていただくということになります。次回のワークショップに向けましては飯田委員と阿部委員、資料のほうよろしく願いいたします。それでは最後の3番目になりますけれども地域づくり関係情報についてということで、事務局から御説明をお願いいたします。

(事務局)

はい。それでは、連絡事項がメインになってきます。25ページを御覧ください。

い。小規模多機能自治関係の講演会や研修会などにつきまして今後の予定になりますが、11月20日、日曜日に、市民文化会館「かたりあ」で、シンポジウムを開催いたします。川北先生の基調講演に始まりまして、地域づくり実践事例報告におきましては、中学生以上全住民アンケートを実施した4地域の中から、伴走者であります里山くらしLABOと一緒に長野地域に登壇して報告してもらおう予定でおります。また委員長をはじめ、6名のパネリストによります、パネルディスカッションもございます。27、28ページに資料をつけてございます。また御覧ください。昨年も皆様のほうには御案内いたしましたが、今年も11月から12月にかけて、全6回のオンライン勉強会を予定してございます。詳細が決まりましたら、またメールにて御案内いたしますので、御都合がつけば、また、御参加のほうよろしくお願いいいたします。地域活動支援者研修会としまして、8月と9月に交流センター職員と、それから、地区の担当の保健師向けに研修会を開催しました。今年の1月には、市社協の生活支援コーディネーター、SCも同じ研修をもう既に受けておりましたので、次につきましては、3者合同で、来年の1月頃年明け1月頃に、地域カルテ作成についての研修を開催していきたいと考えております。次に、地域活動情報交換会ですが、第1回は福祉、第2回は子育て健全育成活動をテーマに実施したところですが、第3回は、防犯交通、第4回は、防災をテーマに計画をしております。第2回では、市民活動センターの市民ファシリテーター養成講座の受講生も、こちらを実践の場として、ファシリテーターのアシスト役として入室していただき、残りの2回についても、実践の場として提供していく予定を考えております。26ページ、中学生以上の全住民アンケートについてですが、本年度は4地域が実施しまして、それぞれ、回収率と報告会の予定日を記載してあります。いずれも、大変高い回収率となっております。長野地域につきましては、対象件数が5,000件以上もありながら、97.2%と、大変高い回収率になり、まさに地域力を感じる結果となりました。ニーズや課題の整理が待たれる状況です。29ページと、30ページを御覧ください。今後の予定の確認をしておきます。今後は、11月24日に第2回ワークショップを開催して、12月のうちにもう一度この条例策定検討委員会を開催したいと考えております。その後につきましては、第3回ワークショップを1月26日に開催して、3月頃に、再びこの条例策定検討委員会を開催しまして、本年度の予定は終了と考えております。本年度につきましては委員の皆様への負担が大変大きい年となっておりますけども、年度末まで、引き続き御協力をよろしくお願いいいたします。私からは以上となります。

(委員長)

ありがとうございました。ただいま、情報提供ということでありましたけれども連絡事項のようなかたちになってしまいましたが、何か皆様のほうから御質問、御意見がありますでしょうか。

それでは特にならぬようにございますので、本日の議事は以上とさせていただきますと思います。次回のワークショップは出席出来ませんが、また盛り上がりを持っていただくことを期待したいと思います。先ほど申し上げましたけれども、阿部委員と飯田委員、御準備もよろしくお願いいたします。また、当日御参加いただく委員の皆様もよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、本日の会議を終えたいと思いますが、進行を事務局にお返ししたいと思います。

(事務局)

以上をもちまして、第7回、条例策定検討委員会を閉会いたします。皆様ありがとうございます。